

感動一点の場

『漓江にて』

1980年 小川原 脩 画

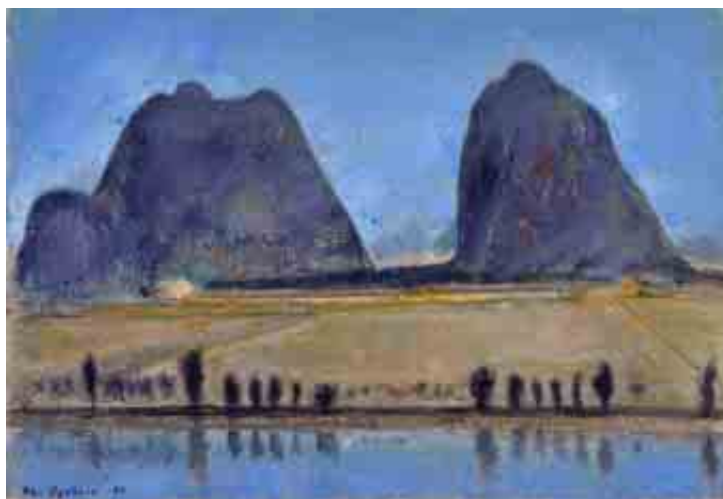
清澄な気配を感じさせる青色、遠近感でいうと青系統は後退色であるという。

小川原は季節感を現すためいくつかの色彩を区別して使う。春から夏は青系統が多いようである。赤系統とは違った雰囲気を出すが青。静かなイメージである。

「浅春譜」「旅のBALLADE」「空よ」の青はとも象徴的な青色である。

さて本作品だが、鏡面のような漓江の川面の青と遠く澄み切った空の青、見るものに清涼感を与えてくれる印象深い作品に仕上がっている。

描いた本人に澄明な心が宿っていたのかもしれない。



ふる探訪 さと

336回

あの時代 この時代



その21「スキーター登場」 昭和38年 3月

豪雪の町の冬の生活をもっと楽しんでみようということで、昭和33年から倶知安町、商工会議所が中心となって、さらに自衛隊の協力をも得て「倶知安雪まつり」が始まりました。昭和38年開催の第6回から「倶知安雪の祭典」に名称を変え、会場も旭ヶ丘公園に移りました。

雪中花火大会、スキーファイヤーショー、自衛隊冬のレンジャー訓練などの行事と一緒に、軽雪上車スキーター実演がありました。

「スキーター」とはスキーとスクーターの語呂合わせでしょうか。昭和40年代から普及し始めるスノーモービルの日本版原型といえるものかもしれません。

町長室から

晴れ間に美しい姿を見せる羊蹄山にも春の光が感じられるようになりました。大雪との戦いも一段落し、「雪トピアフェスティバル」では多くの人たちが雪を楽しみました。今年も寒さの中、設営・運営にご尽力いただいた皆さんに心からお礼申し上げます。

さて、新年度の予算編成作業を終え、町議会に提案する準備を進めています。依然として厳しい台所事情ではありますが、住民サービスを維持するよう努力いたします。卒業シーズンを迎え、新生活の準備などでお出掛けの機会も多くなるとは思いますが、朝晩はまだ路面が凍結するなど注意が必要です。交通事故にはくれぐれも気をつけてお出掛けください。

福島世二

今月の表紙



町内小学校で行われた新1年生「1日体験入学」の一場面。お兄さん、お姉さんから優しく教わりながら、一緒に体育館で運動したり、教室では折り紙を折ったり、わくわくドキドキの1日でした。

関連写真を紹介



＜北海道新幹線のシンボルマーク「北海道新幹線」次は札幌へ＞

広報くっちゃん3月号
NO.986

平成23年3月1日発行

倶知安町の公式Webサイト
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp>
倶知安町役場代表 Eメールアドレス
info@town.kutchan.lg.jp

■発行・編集

倶知安町企画振興課広報広聴係
〒044-0001

虻田郡倶知安町北1条東3丁目
☎ 0136 22 1121 FAX 0136 23 2044

■印刷 (有)旭太陽堂印刷